ずいそう

# 歴史街道を歩く



塩 形 幸 雄

**◆はじめに**

銀山街道は，天領である石見国大森銀山で産出された銀を山陽の港町尾道まで運ぶために設けられた街道で，近世に整備された山陰と山陽を結ぶ重要な道です。大森銀山から産出した銀は，鞆ヶ浦港や温泉津港から日本海を経て，各地に移出していました。関が原の戦いの後，徳川幕府が直轄領とし幕府の命を受けた大久保長安が銀の産出量を増大させました。この銀を安定的に京，大坂（江戸時代は大坂とある）に運ぶため，石見国大森銀山から備後国尾道まで陸路で運び尾道から大坂まで海路で運びました。この銀を大森から尾道まで運ぶため，当時としては高規格の幅員七尺の銀山街道を切り開いたのです（**図―1**）。

**◆銀山街道との出会い**

私が銀山街道に興味を持ったのは，大田市大森の和上さんとお会いした時です。学校の先生を退任され，大森銀山ガイドの会の会長をされていました。銀山街道を愛する方の集まりに参加し，夜を明かして語り合いました。その後，銀山街道に夢中になりました。

大森で産出した銀ですが，いったん大森代官所の御銀蔵に貯蔵し，農閑期の 10 月下旬ころから年 1 回尾道に運んでいます。10 貫目ごとに箱に詰めて牛馬約 270 頭の背に積み，約 400 人の百姓の人足によって隊列を組んで大森から尾道まで，3 泊 4 日で運びました。江戸時代の銀の道のりは，1 日目，朝四つ時大森発，昼江の川沿い小原，夕方九日市宿到着，2 日目，朝六つ時出発，昼赤名，国境の赤名峠を越え夜遅く三次宿着，3 日目，朝四つ時発，昼吉舎，宇賀を経て夜遅く甲山宿，4 日目，朝五つ時発，昼市村着，夜遅く尾道へ到着，御銀蔵へ収納します。陸路は，全長約 130 粁の道のり，大変厳しいものでした。尾道から大坂へは船で瀬戸内海を通って運ばれ，大坂の銀座に収められます。当時の船旅は，銀を監視する程度，風待ち，潮待ちのため，各港で上陸，物見遊山をしたりの旅，船内では，適度に船酔していたようです。




図―1 銀山街道ルート

**◆全区間を歩き始める**

銀山街道など，日本風景街道に指定された道などを，資料を片手に観て歩く・そんなスローライフなスタイルが新たな道のつかわれ方として根づくことを期待しています。こうしたことをきっかけに，あらためて，銀山街道を史実にもとづいて，歩くことを思い浮かべました。

銀の道―大森～尾道へ―ですが，江戸時代，大森銀山でとれた灰吹銀は，尾道まで 3 泊 4 日で運ばれています。このたび，物好き達が大森～尾道まで現代の銀山街道ウォークとして 3 泊 4 日で歩きました。その無謀な紀行を紹介します。

江戸時代，石見国大森で産出した銀は大森を出発，九日市，三次，甲山を経て尾道まで牛馬で運び，船で大坂に運ばれていました。大森～三次経由～尾道まで，農閑期の 11 月下旬，3 泊 4 日で運んでいます。銀の道を歩く会は，江戸時代の史実と同様に，3 泊 4 日で歩いてみようと決意，実行することにいたしました。

1 日目，朝 7 時，大森代官所（石見銀山資料館）にて迎え出発式を行うとともに，8 時前大森代官所を出発，絶景のやなしお道を経由，美郷町粕渕の小原旧本陣にて遅い昼食（近くのワイワイ広場），半駄が峠を経由，九日市宿（旧本陣跡）に到着しました。17 時間，約 31 km の行程，心地よい疲労感でした（**写真―1**）。

2 日目，7 時，飯南町長に見送られ旅館を出発。飯南町長から激励を頂き，勇気づけられました。その後九日市宿で，当日参加の人と合流し出発，出雲街道の分岐の飯南町赤名宿，そして，国境の赤名峠を経由，



写真―１　大森代官所



写真―２　赤名峠




写真―３　銀の道の笠



写真―４　畑古道




写真―５　尾道住吉神社

室集会所において昼食，仏が峠，神之瀬のわたりを経由，三次本陣跡に到着しました。12 名参加，約 12 時間，約 39 km の行程，ずいぶんと身体にこたえました（**写真―２**）。

３日目，７時，三次町を出発，岡田の渡し，一の渡を経由，吉舎宿にて昼食（三次市吉舎歴史民俗資料館），昼から，中山一里塚，小童頼籐，世羅の宿「ひがし」を経由，世羅町赤屋に到着しました。遅くなったため，赤屋神社までとしました。16 名参加，約 12 時間，約 42 km の行程，当時の人の苦労が思い起こされました（**写真―３**）。

４日目，最終日，９月 22 日７時 30 分，赤屋神社前を出発，甲山宿旧本陣跡，宇津戸，宇根古道を経由，道の駅御調において昼食，畑峠，市原常夜灯を経由，尾道の住吉神社に到着しました。19 名参加，約 10 時間，約 30 km の行程で，大地を踏み締めました（**写真―４**）。

住吉神社で，盛大に到着式を開催。到着式では，尾道市観光課長から，大森～尾道までの完歩者に，記念の完歩証がおくられました。４日間の行程は，合計で約 44 時間，142 km の長い道のりでした。参加者は，全員で 37 名，４日とも参加したのは８名，大森～尾道まで完歩したのは４名でした（**写真―５**）。

### ◆今後に向けて

銀の道については，民間団体関係の「銀の道広域連携実行委員会」が活動を続けており，フォーラムの実施，カレンダーで地域の PR，利用しやすい地図作り，広域案内板の設置，広島発のバスツアーなど，地域連携活動として行っています。また，「銀山街道，陰陽を結ぶ銀の道」として，国土交通省施策の日本風景街道に認定されるなど気運は高まっています。銀の道という歴史遺産を活用して，多くの方が集まり，それぞれの地域の交流・連携が少しずつでも図れました。私もこのような地域活動の取り組みが好きで，暇を見つけては，出かけている今日この頃です。

――しおかた　ゆきお　清水建設㈱　広島支店　参与――